

長崎県立長崎鶴洋高等学校 水産高校生が内航タンカーを見学
株式会社三洋海運商会「第八三洋丸」見学会

7 月 1 日、長崎市にある株式会社ナカタ・マックコーポレーション長崎工場内の岸壁で、長崎県立長崎鶴洋高等学校の船員を目指す生徒を対象に、内航タンカーに興味を持ってもらおうと、株式会社三洋海運商会の「第八三洋丸」見学会が実施された。

見学会は、午前と午後の 2 回に分けて実施され、午前の部には 1 年生 42 人、午後の部には 2 年生 17 人、3 年生 6 人の 23 人、計 65 人が参加した。

見学では乗船する前に、生徒たちへのレクチャーが行われ、生徒全員が安全帽と軍手を着用し、船内でケガをしないよう、頭上やステップに注意して歩くよう注意喚起が行われた。また、この機会に普段なかなか目にすることのないタンカー船の船橋（ブリッジ）、居住区、事務室、機関室、甲板上の荷役設備などを実際に見て触れて体験することで、貴重な機会にしてほしいとの説明が行われた。

会社からのメッセージ

見学を終えて下船後、船長が講師となり、岸壁に質問コーナーが設置されると、給料や仮バースなどについて質問が出された。

船長は、仮バースで停泊した都市やその過ごし方について説明し、また、給料についても年間臨時手当の支給実績などについて説明した。引率した同校卒業生の乗組員 2 人から生徒たちに対し、社会人となった今感じることや乗船中に心がけていること、また、残りの学校生活の過ごし方など、後輩に向けての激励の言葉が伝えられ「卒業後に株式会社三洋海運商会でお待ちしています」の言葉で締めくくられた。

最後に、利根武夫代表取締役社長が「タンカー船は他の内航船と比較するとルールが厳しく、マニュアルを含め勉強することが多いという点ではありますが、それはすなわち、事故防止の体系が整っていることでもあります。ルールに従って仕事すれば事故が起こらないということです。今回の見学会でタンカーの魅力が少しでも伝わったのなら大変光栄です」と述べた。見学会の帰り際には、パンフレットが配られ、見学会を終了した。

「海員だより」